は飼育結果からして認めがたく、飼育管理上、作業の簡略化を図るうえからも100％海水飼育が望ましい。歩留りについては0～57.8％の範囲で平均は17.4％であった。

減耗時期は沖出しまで大きく分けて2回生じている。第1回は日令3～9にかけて斃死魚が出現した。水槽の飼育条件等によってかなり差があるものの、この間における斃死率は20～80％に及ぶものとみられる。要因としては飼育水の急激な水温変化と適正餌料の不足があげられる。

ミナミクロダイの産卵は図1に示すとおり1～3月であり、この時期は低水温期であるためワムシ培養水槽にはL型が出現する。したがって開眼，開口時期に適正餌料の不足が考えられるため、ワムシ培養にはS型ワムシも確保する必要があると思われる。第2回目の減耗は日令20から沖出しまでに生じた。要因は共食いと寄生性原虫の寄生により摂餌不良となって衰弱死した。共食対策としては餌料不足を生じさせないこと、大型餌料（チグリオプス，アルテミア等）を給餌する必要がある。寄生性原虫の出現は飼育水の換水率を低くしたとき、あるいは止水状態で飼育した場合に生じている。ワムシの供給不足は必然的に飼育水の換水率に影響するため、ワムシの長期安定大量培養方法の確立が必要である。

平均全長9.8～16.2㎜サイズまでの飼育期間は30～50日間を要している。沖出し月日は2月14日から4月4日の範囲であるが、3月中，下旬に集中した。これは2月の中，下旬には大量採卵が可能なこと、その時期から飼育開始して日令35前後（全長12㎜）で沖出しサイズに達することに起因している。

2. マダイ

マダイの年度別種苗生産結果を表6に示す。マダイの産卵は散発的で1回当たりの産卵数は少量、浮上卵率及びふ化率が低率であったこと等により、小型水槽を使用しての小規模な飼育となった。飼育環境については水温が19～27.0℃の範囲、平均すると23～24℃台の水温、塩分濃度は33～34‰の範囲であった。歩留りについては3.6～35.0％の範囲で平均歩留りは19.7％であった。減耗時期は開眼，開口時から日令6までに30％前後の大量斃死が生じたが、日令7以降から沖出しまでは目立った斃死は認められなかった。仔魚収容密度が全体的に低密度であり、それに比例してトン当たり生産尾数も低い数値であった。成長については日令5では3.3㎜，日令10では4.9㎜，日令15では6.7㎜，日令20では8.9㎜，日令25では11.2㎜の大きさとなり、沖出し可能なサイズとなった。

3月中旬に採卵して飼育すると沖出しは4月中旬に、3月下旬に飼育を開始する4月下旬には沖出し可能となった。マダイの産卵が2月中、下旬に行なわれるならば、ミナミクロダイと同様に3月末までには沖出しが容易に可能なものになると思われる。